

児童思春期外来について

本院では週2日(水曜日・木曜日)に児童思春期の精神医療の専門外来「児童思春期外来」を開設しています。今回は子ども達の精神医療と本院の取り組みについて精神科神経科の梅原医師にお話を伺いました。

♡ 児童思春期外来とは

本院精神科神経科では、18歳以下の新患が年間70～100名程度受診され、そのうち8割が思春期の子ども達となっています。

思春期は特に友人関係や親・学校の先生などの身近な大人との関係で非常に悩む時期ですし、様々な精神疾患の好発時期でもあります。また、大人と子どもでは発達段階の相違から、物事に対する不安や恐怖の感じ方にも違いがあり、大人と同じような対応はできません。そのため、子どもの精神医療に携わる医師には、子どもの心に関する一定水準の専門知識と技能を身につけておくことが必要となってきます。

本院児童思春期外来では、子どものこころ専門医((一社)子どものこころ専門医機構認定。以下同じ。)である。医師3名が、18歳以下の方を対象に診察しています。初診は、毎週水曜日と木曜日の午前中に設定しており、電話での予約を受け付けています。

病院で行われる治療法には、薬物療法、カウンセリング、環境調整などがあり、子ども達の個々の状況に合わせて行います。環境調整は、本人が生活しやすい環境を整えることですが、具体的には、親御さんや学校の先生など本人の周りの大人に対し、疾患への理解、対処方法などを伝えるとともに、親御さんへのケアも行って

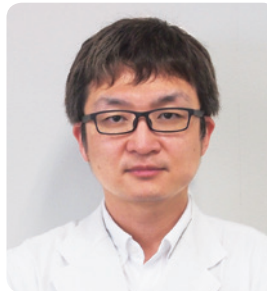
います。

また、様々な理由から対人関係に悩む思春期の子ども達向けに集団社会認知リハビリテーションプログラムも用意しており、心理学に関する雑学を学んだり、その雑学に関連する様なボードゲームをしたりしています。親御さんには思春期の子をもつ親向けのペアレントトレーニングを不定期で行っています。トレーニングという名称になっていますが、そんなに気を張る様な内容ではないので安心して受けにきていただければと思います。(4月14日時点、新型コロナウイルス感染症の影響で一時休止中)

その他にも、思春期以外の様々な年齢層の方が参加



診察室風景



■説明は
徳島大学病院
精神科神経科
総務医長
梅原 英裕
(うめはら ひでひろ)

■お問い合わせ先
精神科神経科外来
Tel: 088-633-7128

患者さんへひとこと

子ども達本人はもちろんですが、親御さんもうしてよいのか分からないと途方にくれていることもあるかもしれません。自分達だけで抱えず、相談に来て下さい。すぐには解決できない問題もたくさんありますが、子ども達の成長を皆で見守っていただければと思います。

しているデイケア(主にグループ活動で、対人関係や日常生活の練習、疾患への理解を深めること、趣味の活動など様々なプログラムがある)や作業療法(陶芸、革細工や手芸などの創作活動)に参加していただくことも

あります。

ただ、現在新型コロナウイルス感染症の影響で、活動に制限のある取り組みがありますので、感染予防対策を実施しながら、徐々に活動を再開していきたいと考えています。

♡ 子ども達の心を守るために

現在、子どものこころ専門医は全国で約600名程度認定されており、徳島県では6名認定されていますが、それ以外にも、児童思春期の精神医療に精通し、数多くの子ども達を診ておられる医師が県内にいらっしゃいます。それでも専門性を持った医師は不足しているのが現状です。

本院精神科神経科は、今年の4月から本院小児科及び四国こどもとおとなの医療センター児童精神科と連携する形で、子どものこころ専門医の研修施設となっています。今後、更に子ども達の精神医療に携わる医師の育成に力を入れ、子ども達が適切な精神医療を受けられる環境を作ることに努めていきたいと考えています。



デイケアルーム風景

